

機材について (海部編)

監修：奈良

2018.06.01

氏名

機材について

放送では、機材を用いて様々な放送を行う。

ここではそれをまとめる。

入力機器

・有線マイク

音声を電気信号に変換する機器。ダイナミック型と、コンデンサー型がある。

マイク側は主にキャノンのオス端子となっている。

マイクの指向性とは、音が良く取れる範囲のことである。

指向性が強いとマイクの中心線のみ捕捉できるが、首が触れたりすると音が入らなくなる

・ボイスレコーダー

マイクと音声記録メモリーが一体化した機器。指向性が調整できるので注意。

取材では主にこちらを使う。

ゲイン（入力音量）が小さいので、大きめに収録する

別のマイクをつなげて収録することも可能。

・ワイヤレスマイク

接続コードのないマイク。受信機とペアで使用する。

体育館は2本のマイク。移動式受信機(黄ばみ)2本のマイク。移動式受信機(青)1本のマイク。

移動式受信機(青)は拡声器と、ラインで出力する場合の切り替えスイッチがあるので注意

再生機器

・アンドロイド携帯はイヤホンジャックで。i-phoneは変換ジャックが必要。

・「CDプレーヤ」汎用性がある。振動に弱い。

・「MP3再生機器」ボイレコ・携帯など。振動に強い。

・「MDプレーヤ、レコードプレーヤ、カセットテープ、VHS」などはすべて過去の遺物となった

撮影機器

・「一眼レフ」3台所有。一番画像は鮮明。深みが出せる。望遠・広角・接写レンズを付け替えて使用

・「ミラーレス」1台所有。画像は鮮やか。望遠・広角レンズを付け替えて使用

・「デジカメ」10台所有。スナップ撮影向き。放送委員が主に撮影

録画機器

・「ビデオカメラ」6台所有。

・基本は三脚を立てて撮影する。手持ちで撮影するときはそれしか方法がないとき

(マイクに付随する機器)

- ・マイクスタンド (スタンドマイク)
朝礼で使うような、まっすぐ直立したスタンド。校内には1つしかない。
- ・ブームスタンド
マイクがついた斜めのパイプを支える直立したスタンド。足は3本。10本以上ある。
ギターを弾きながらなど障害物を避けてマイクをセットできる。
- ・卓上マイクスタンド (スタンド型)
机の上に置く直立スタンド。スタンドを動かして調整する。
- ・卓上マイクスタンド (フレキシブル型)
机の上に置く直立スタンド。マイクの位置を調整できる。
- ・「マイクホルダー」アナに差し込むタイプと、はさむタイプがある。
- ・「ポップガード」リップノイズをカットする。
- ・「マイクカフ」アナウンス側で音声信号のオンオフ処理を行う機器
- ・「マイクブームポール」カメラに映らないよう演技者のセリフを録音するため、釣り竿のような長い棒の先にマイクを付けて、上から演技者に向けて垂らす機器。ドラマ撮影では必需品。

ミキサー

- ・マイク音声信号やライン信号を集め、音量を調整してアンプに渡す機器
- ・「ゲイン」入力音量の制御
- ・「パン」左右の音量調整
- ・「ハイ・ミドル・ロー」高音・中音・低音の音量調整。周波数指定可能なものもある。
- ・「チャンネル」入力できる音声信号の数。
- ・「4 c h ミキサー」3台ある。簡単な音声処理や、体育祭でのマイクカフに用いる。小ミキ
- ・「8 c h ミキサー」USBで直接デジタル録音ができる
- ・「16 c h ミキサー」体育祭や体育館ステージで利用する。中ミキ
- ・「24 c h ミキサー」中庭ステージで使用する。大ミキ
- ・「36 c h ミキサー」体育館放送室で眠っている。
- ・「ツマミ」回して調整する。
- ・「フェーダー」上下にスライドして調節する
- ・「ライン入力」マイク以外の音声信号のこと。入力レベルはマイクの1000倍 (対意語：マイク入力)
- ・「マイク入力」マイクからの入力信号は微弱でライン入力の1/1000
- ・「AUX端子」補助入力・出力端子
- ・「MUTE」有効にしたチャンネルでフェーダーの位置にかかわらず、音声を出力しない機能。
- ・「PFL」フェーダーの位置にかかわらず、ミキサーに入力されたそのままの音量を流す機能。
ゲインの調整をするときに使用する

変調機器

- ・「エフェクター」音に対して、何らかの加工を加える装置
- ・「イコライザー」高音中音低音など周波数に応じて音量を変える装置。
- ・「グラフィックイコライザー」（グライコ）非常に細かく周波数ごとに音量を変える装置。
- ・「エコーマシーン」ばね等の部品を使って機械的にエコーを起す装置

増幅機器

- ・「パワーアンプ」ミキサーからの音声信号を増幅してスピーカーに渡す装置
- ・「ゲイン」と「ボリューム」はバランスよく調整。（片方のみ大きくしない）
- ・最初は小さくして確認。いきなり大きな音を出さない。
- ・ワイヤレスの移動式受信機にはアンプとスピーカーが内蔵されているのでそのままで使用できる

出力機器

- ・「スピーカー」音声信号に応じてスピーカーを振動させて音を出す装置
- ・「スピコンケーブル」を用いて結線することが多い。
- ・「ギターアンプ」はアンプとスピーカーが一体化していて、それを入力機器としても利用する
- ・スピーカ同士を結線して音を出すこともできる
- ・「ヘッドフォン」外からの音が入りにくい密閉型と、外の音も聞こえる開放型がある。
- ・「イヤフォン」耳の穴に入れて使うタイプと耳にかけて使うタイプがある。

体育館の特性

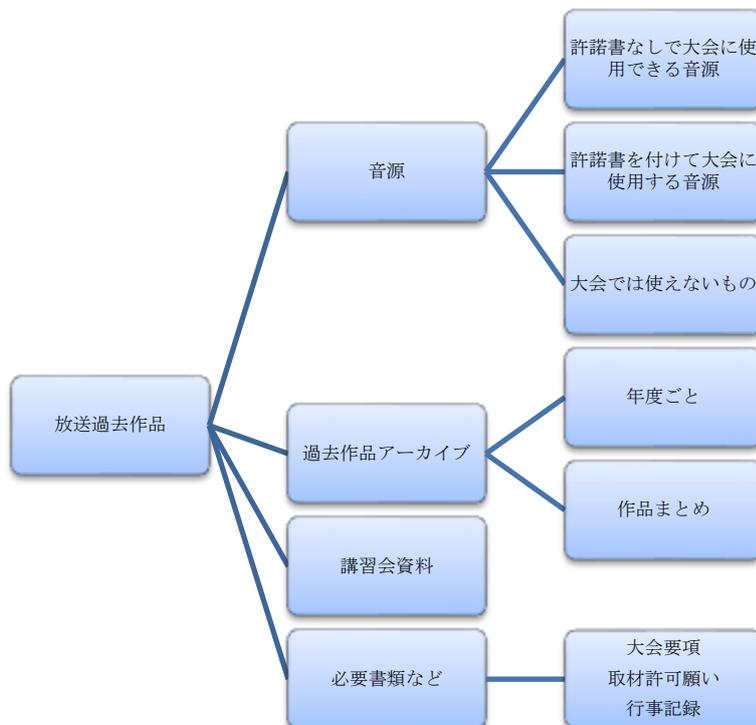
- ・キャノンジャックは、舞台上手・舞台中央・舞台下手の3か所
- ・舞台上手のキャノンジャックはライン入力専用。マイクはミキサーを通さないと使えない。
- ・ワイヤレスは2本。
- ・ワイヤレス・舞台中央・舞台下手は、体育館放送室で音量調整可能。
- ・舞台上手のライン入力は音量固定で体育館放送室で制御不可。
- ・体育館放送室ミキサーの電源は、体育館教官室で遠隔操作。
- ・体育館放送室ミキサーのワイヤレスのボリュームは上げたままにしておくこと
- ・基本は有線2本・ワイヤレス2本。これ以上必要な場合は、ミキサーとマイクを持ち込んで使用する。
- ・ステージ上の電源端子は4つある。この4つは放送機器など弱電に使用する。
- ・下手袖にある電源端子(巨大なもの)と普通の大きさのものはライトなど強電に使用する
- ・プロジェクタ・電ドラ・移動型ワイヤレス・パソコンは体育館放送室にある

コード

- ・「オス」プラグという。でっばってる。メスにさしてつかう。
- ・「メス」ジャックという。穴が開いている。
- ・キャノンコード(XLR)
 - 3つ穴のコード。主にマイク音声を中継する。放送室には50mの長いコードがある。
 - 「オス⇄メス」がほとんどだが「オス⇄オス」「メス⇄メス」も存在する
 - マイク⇄ミキサー、ミキサー⇄アンプの接続に使います。
- ・ピンコード (RCA/ピン端子/赤白端子)
 - 音声や映像を渡すケーブル。赤(R)、白(L)、黄(映像)となっている。
 - 右 (Right) が赤 (Red) で覚えてください
- ・標準端子コード(フォーン端子/標準ピン/6.3mmピン)
 - ギターにさす端子を持ったコード。
 - 「標準⇄標準」「標準⇄ミニ」「標準⇄キャノン」などが存在する
 - XLR以外のミキサーへの接続に使います。
 - ギターアンプ/PC/ワイヤレスマイク (レピーター) とか
- ・ミニ端子コード (ミニプラグ/3.5mmピン)
 - ヘッドホン端子にさすコード。ステレオとモノラルがある。i-phone 7以降は変換必要
 - スマートホンと一部無線機ぐらいにしか使わない。これも2極/3極がある。
- ・スピコンコード
 - スピーカにさす端子を持ったコード。本数は少ないので大切に。
 - パワーアンプ⇄スピーカー、スピーカー同士の接続に使います。強電向けコード
- ・HDMIコード
 - デジタル映像機器の接続に使用。
 - ステレオ音声と映像を一つのコードで接続できる。コードはメスメス。機材はオス。
- ・コンボジャックはXLRとフォーン端子のどちらも接続することができる。
- ・変換端子
 - 様々な端子をミキサーなどにつなぐために変換するとき使用する
- ・「八の字巻き」
 - 長いコードが絡まないための巻き方。八の字にするタイプと丸の形にするタイプがある

パソコン・コンピュータ編

- ・放送部の活動で、パソコン室を使用している。
- ・自分たちのIDとパスワードでサインインする。(具体的には先輩に聞いてください)
- ・サインインすると、放送部のフォルダが閲覧可能になり、その中に部員個人のフォルダがある。
- ・こちらに作業中、または完成したファイルを保管する。読みの原稿も保存する。
- ・また、「過去作品フォルダ」は放送部の過去の作品を見ることができる。参考にすること。



フォルダの説明

- ・「許可書なしで大会に使用できる音源」
 - ・アーキーとNHKクリエイティブライブラリの音源
- ・「許可書をつけて大会に使用できる音源」
 - ・いわゆるフリー音源だが、ジャケットコピーなどの許諾が必要
- ・「大会では使えないもの」
 - ・いわゆるヒット曲
- ・「過去作品アーカイブ」「年度ごと」に部門ごとに作品が保存されている。
- ・「作品まとめ」年度ごとに作品がリンクの状態でもとめられていて、簡単に閲覧できる
- ・大会に作品を提出する際の注意事項などがまとめられている
- ・「行事記録」年度ごと行事ごとにフォルダが作成されていて、記録写真を見ることができる。

【ソフトウェア】

- ・「メディアプレーヤ」
 - ・動画と音楽の閲覧に使用
 - ・作品を見る際にこれを選択したほうが早く起動することができる。
 - ・CDから音楽を取り込み、MP3やWMA音源に変換でき、CD作成も可能
 - ・CD作成は、教員機のみで作成できる。
- ・「ムービーメーカー」
 - ・簡単な動画編集に。1トラックしかない。
- ・「パワーポイント」
 - ・スライド作成ソフトだが、自動切り替えを設定すれば、MP4形式の動画になる
- ・「フォトショップ」
 - ・写真合成・レタッチソフト。レイヤーが使える
- ・「アドビ・プレミア」
 - ・動画編集ソフト。画像を無視すれば音声編集ソフトとして使える。
 - ・放送部はこれをメインに使用する。トラックは無限に設定できる。
 - ・DVD作成は教員機のみで作成可能。

【アドビ・プレミアの使用方法】

- ①素材をなるべく一つのフォルダに保存する。
- ②プレミアを起動する
- ③「プロジェクトのアセット」を展開して、その中に素材を丸ごと放り込む
この辺で指定された場所に保存しておく。以下時々保存する。
- ④最初に編集しようと思っている素材をアセットからタイムラインに移動する。
- ⑤タイトルを入りたい場合は「テキスト」「初期設定のテキスト」から行う。
 - ・「ロールタイトル」は映画のように下から順に表示されるタイトル
 - ・「クロールタイトル」は横に流れるタイトル
- ⑥赤い線をカットしたい場所に移動させ「」のアイコンでカットする。
- ⑦次の素材をタイムラインに追加する。
- ⑧テロップなど素材を重ねたい場合は「ビデオ2」などのトラックを使用する。
- ⑨映像や音楽のF I, F Oは左の窓内の「・」を押して、変更ポイントを設定し行う
- ⑩最後に「書き出し・配信」で「コンピュータ」「MPEG」「HD720P30」
「保存先」を設定して「保存」

一録音・撮影・ステージ用語一

《あ》

- ★あおる カメラを上に向けて撮影する事
- ★あたま 番組や音楽の冒頭部分。「冒頭」「トップ」ともいう
- ★アテる セリフを画面の口に合わせて吹きこむ作業
- ★アテレコ 吹き替えの録音作業。アフレコ(アフターレコーディング)ともいう
- ★アップ
 1. 「クローズアップ」の略称。
クローズアップ大写し。様写。『C—UP』と記す。
 2. 『アップショット』の略称。
アップショット(通称:アップ)
 - 1.人物を撮影する時‘おおむね顔全体が写るサイズ。『US』と記す。
 - 2.小さな被写体を画面いっぱいに写す。
- ★アドリブ 台本に指定されていない即興的なセリフ
- ★甘い 中途半端。「甘いなあ。もっと対象にフォーカス当てて」
- ★アングル 『カメラアングル』の略称。撮影する際のカメラの位置や角度。
カメラの高さにより、『ハイアングル』『水平アングル』『ローアングル』 と言う。
ドラマは上から下からいろいろとるほうが良い。

《い》

- ★板付き(いたつき)
シーンの冒頭から画面上に登場人物が立っている事。(関連語:フレームイン)
- ★位置決め(いちぎめ)
撮影する物品を配置する位置を決める事。人物の立ち位置の意味で使われる事もある。
- ★移動ショット(略称:移動)
ドリーで移動しながら撮影する事。または撮影された映像。
- ★入り スタジオや現場に入ること。(反対語:出)
- ★イントレ 俯瞰台。高い位置から撮影すること。工事用の足場がよく使われる。
1916年制作された『イントレランス』(米)で群集シーンの俯瞰が効果的に使われ、
俯瞰撮影台を映画の題名をもじって使われるようになった。
- ★イントロダクション(略称:イントロ)
映像作品の導入部分。冒頭部分。

《う》

- ★ウエストショット(通称:ウエスト)
人物を撮影する時のサイズ。おおむね腰から頭までが写るサイズで「WS」と記す。
- ★うるさい
 - 1.被写体以外によけいなものが写り込んでいる状態。
例えば被写体となる人の周りに通行人が写り込んでしまうなどの場合等。
 - 2.画面会体がごちゃごちゃしていて観点が定まらない映像。

《え》

★絵コンテ(えコンテ)

カット割りされたシナリオに基づき、実際に絵を描いて1カットごとの構図を示したもの。

★SE (エスイー) 「Sound Effect」の略。効果音。

★絵になる(えになる) 好ましい映像が撮れる。

美しい映像が撮れる。構図が決めやすい。(反対語:絵にならない)

★エフェクト効果。映像や音声に何らかの効果を加える事。

★NG 「ダメ」「使えない部分」のこと

★MA(エムエー)

映像の音声(セリフ、効果音、音楽、ナレーション等)をミキシングして仕上げる事。

マルチトラックの録音機が使われていたため「MA」と言う。

現在ではハードディスクレコーディングが主流になったが言葉だけが残った。

★演出 (えんしゅつ)

1.映像表現に関わる作業を指揮統括する事。

2. 『演出家』の略称としても使われる。「ディレクター」「監督」と同義語。

《お》

★OL(オーエル又はオーバーラップ)

場面転換の一つ。

徐々に消える一つの画面に重なって、次の画面が徐々に現われる場面転換の効果。

「ディゾルブ」「クロスフェード」と同義語。

★オムニパス 複数の物語で構成された作品。

★おいしい ぴったりはまる状況

★押し ある人物や物事を中心に話を推し進めていくこと

★押す 決められた時間に収まらずにセリフが伸びてしまう時、予定の時間をオーバーしてしまう時

★音割れ 機器の設定された最大音量を越えている。

割れないように小さいところから音を出し始める。

入力側のギターアンプとミキサーのゲイン・パワーアンプの音量バランスが悪い。

(一つが1で一つが10にならないように調整。どれもが6ぐらいが理想)

・メーターで最大が0db(デシベル)を超えないように。でもぎりぎりに。(赤ライン)

・アナログメーターは0dbを超えないように。デジタルメータは時々赤がつく程度

ステージミキサーでは常に音割れがしないように細心の注意を払うこと。

★オフ(画像) 登場人物などが画面に映っていないこと

★オフマイク マイクから離れて発声するとき

★オミット セリフをカットすること。カットとも言う

★オン 画面に映っているということ

★オンマイク 音を出すものにマイクを近づけること

《か》

- ★返り（返し） ①ヘッドフォンから送り出されてくる音声や音楽。
②演奏者用のモニターのためにスピーカを設置すること
- ★顔だし ナレーションや、アテレコの人が画面に出ていること
- ★固い こわばった演技。「固いなあ。もっとリラックスして。」
- ★カット
 1. カメラが回り始めて止まるまでに撮影された画面。編集におけるイン点からアウト点まで。
 2. 切る。排除する。
- ★カットバック
違う場所や時間等の複数のシーンを交互に対照しながら編集する技法。
- ★カット表
編集時に使用する各カットのデータを書き込む表。
- ★カット割(カットわり)
シーンをどのようなカットで構成するかを決める事。(関連語:コンテ)
- ★かぶる
 1. 被写体の前に余計なものが写り込む事。又『かぶらせる』は写り込ませる事。
 2. 録音の際、必要な音に不必要な音が重なる事。
- ★上手(かみて)
撮影する側から見て右側。カメラに向かって立つ出演者からは左側。
スタジオでは Horizont(背景となる場所)に向かって右側。(反対語:下手(しもて))
- ★カラーバー (略称:バー) 「V」
編集の際に指定されたカラーバーを最初に保存する。
- ★ギャ その他大勢。ざわめき。
- ★カメラテスト
 1. カメラが正しくセットアップされているかどうかをテストして確認する作業。
 2. カメラワークを確認する目的で行なわれるリハーサル。
テレビスタジオでは『カメラリハーサル』『カメリハ』という言い方をする。
- ★カメラ目線・出演者の目線がカメラを向いている様。
・ドラマでは通常使用しないが、「主観映像」(カメラが主人公)で使用する。
- ★完パケ 編集がすべて終了し出来上がった完成品。

《き》

★消え物〈きえもの〉 食事シーンなどで使う食べ物や飲み物。撮影後は無くなるので。

★きっかけ『タイミング』を意味する。『キューを出す』の意味で使われる。

★起承転結(きしょうてんけつ)

例えば、

『起』は導入節、『承』は展開部、『転』は転換部、『結』は集結部を意味する
シナリオ等の構成の型式。

ストーリーのメリハリや、話しの筋立ての意味で使われる。(類似後:序破急)

★脚色〈きやくしょく〉

原作をシナリオに書き直す事。原作を作者の意図に従って書き直す事。

★脚本〈きやくほん〉(略称:本)

『シナリオ』の事。略称の『本』という呼び方がよく使われる。

★キャスト 配役

★逆光(ぎゃっこう) カメラに向かって太陽がある事。

被写体の後ろ側からカメラに向かって照らされたライト。

『バックライト』とも言う。(反対語:順光)

★キュー ディレクターが演技者に出すスタートの合図。

★切り返し(きりかえし)

例えば、二人の会話を撮るとき、交互にお互いの顔を撮影する事。

逆の角度から撮影するカット。

《く》

★クランクアップ 映画撮影において、全ての撮影を終了すること。

★クランクイン 映画撮影における最初の撮影を言う。映画の『撮影開始』を意味する。

★クレジット

1.スタッフやキャストのテロップ。

2.大会に提出する作品にはクレジットは挿入しないこと

《け》

★ゲネプロ 最終リハーサル。衣装も時間もそのままに通して行う。

★ゲイン 入力機器の音量のこと。ミキサーで割れないぎりぎりまで上げておく。

《こ》

★コンテ

シナリオをシーンごとにカット割りしたもの。

それを絵にしたものを『絵コンテ』と言うが、『コンテ』を同義語として使う場合もある。

《し》

★地明かり（じあかり）

- 1.ライティングをしない現場の明かり。
- 2.ライティングによって作られるペースになる明かりを指す場合もある。

★シークエンス

シーンの流れ。話の筋の流れ。

★シナリオハンティング(略称:シナハン) シナリオを書くための取材。

★尺 セリフなどの長さ。俳優の出番の長さ。「彼の出番に尺を取りすぎたのでカットする」

★ショット

カメラが回り始めて止まるまでに撮影された画面。

編集におけるイン点からアウト点まで。『カット』と同意語。

「アップショット」（顔だけ、手だけなど）「バストショット」（胸より上）

「ロングショット」（全身）（校庭全体など）「ドローリーショット」（移動しながら）

「パンショット」カメラ位置固定で被写体を追うように回転しながら撮影する。

《す》

★スタッフ 脚本家、カメラ担当、演出家、その他、俳優以外の人達

★捨てカット(すてカット)

1.余分に付け加えるカット。

例えばニュース映像の編集では‘予定尺より余分に捨てカットをつないでおき、ナレーションが予定より長くなっても映像が切れないようにしておく。

2.撮影現場において、使わないかもしれないけど一応撮っておこうという映像。

結構役に立つ事が多い。

★ステレオ 2系統の音声のこと。

左右で系統が違うためバランスや音を変えることで音に立体感をもたらすことができる。

ステージではいろいろな楽器やボーカルを適切な位置から音が出ているようにセットする

★ストップモーション 動いている映像をある場所で静止画にする事。

★スネークイン・スネークアウト フェイドインフェイドアウトよりスローな音量(映像)調節

★スローモーション(略称:スロー) 実際の動きより遅く再現される撮影方法。

★雪州(せっしゅう)

例えば背の高さが極端に違う出演者の2ショットを撮る時、低い方の人を台の上に乗せ、高さを調節する事。

ハリウッドスターの早川雪州が外人タレントと2ショットを撮る時、よく台の上に乗った事から生れた言葉。

《そ》

★ソフトフォーカス

軟焦点とも言い、ピントがソフトな事。

レンズ前に「紗」を付けたり専用のフィルターを付ける事によりその効果を得る事ができる。

《た》

★立てる 強調する。「彼女を立てて。ほかは捌^はけて」

《て》

★テイク

一つのカットの一回分の撮影。

一回の撮影でOKが出なければ『テイク 2 (ツー)』『テイク 3』…の撮影を行なう。

★リハ・・・テスト本番前のリハーサル。

ロケ現場で使われる言葉で、スタジオ収録の場合は『リハーサル』と言う事が多い。

★テスト本番(テストほんばん)

テストだがとりあえず撮影を行なう事。

これ以上テストを繰り返しても、よい演技が期待できない場合や、

出演者が緊張して本番では不自然な表情になる事が予測されるとき等に行なわれる。

★撤回(てっしゅう)

撮影が終わり、かたづけて現場を現状復帰させ、その場から立ち去る事。

★テロップ

画面にのせる文字。『スーパー』とも言う。多すぎるとうるさく、少ないと分からない。

★ト書き(とがき)

シナリオ上で出演者の動きやシーンの状況等を示す文章。

★ドキュメンタリー(略称:ドキュ)

単に『記録映像』『ノンフィクション』の意味に使われる事もあるが、

制作者の主観が入ったものや、より深くジャーナリスティックに内容を追求したもの等、

『記録映像』とは区別して使われる場合が多い。

★トラックアップ(TU) カメラが徐々に被写体に近づいていくこと

★トラックバック(TB) カメラが徐々に被写体から離れていくこと

★ドリー(又はドーリー)「機」

移動しながら撮影を行なうための台車。レール式やタイヤ式の物がある。

レール式の場合は『レール』、タイヤ式の場合は『タイヤドリー』と呼ぶこともある。

★どん引き(どんびき)

今の位置からそのまま下がってロングショットの画面を撮る事。

『ロングショット』そのものを指す場合もある。

《な》

★長回し(ながまわし)

1 カットの時間が長い事。長い時間のカットを撮影する事。

特に何分以上といった基準があるわけではない。

★なめる

被写体の手前に、人物の一部や物品の一部を画面に入れる事。超アップ。

「越しショット」と同義語として使われる事もある。

「彼女の指をなめて、そのあと引いて」

《は》

★ハウリング スピーカーから出力された音声をマイクがまた拾ってしまうこと。独特の嫌な音をする。マイクとアンプ・スピーカーで無限ループが起こった結果である。これが起こったらすぐにアナウンサーはマイクのスイッチを切り、ミキサーのメインボリュームを操作してハウリングを止めてから、原因を特定して取り除く。

★はける その場にあるものを取り除くこと

★バストショット (通称:バスト)

人物を撮影する時のサイズ。おおむね胸から写るサイズで『BS』と記す。

★場見る (ばみる)

出演者の立ち位置やセットを置く位置に印を付ける事。『ばびる』という方言もある。

★場見り (ばみり)

出演者の立ち位置やセットを置く位置に付けられた印。『ばびり』という方書もある。

★ばらし 設営したものを解体すること。

★パン ①カメラを三脚で固定させ被写体を追うように回転させながら行なう撮影。(関連語:テイルト)

②ミキサーで、モノラルの音を左右に配置するためのツマミ「PAN」

「BAL」はステレオ音声をミキシングするときに入力する左右バランスを調整する

★ハンディー カメラを三脚に据えず、手持ち撮影を行なう事。『ハンド』と言う事もある

★バンド 二人以上の演奏と歌を歌う集団。一人はソロ。

マイクはドラムとボーカルに。ラインはギター・ベース・キーボードに必要。

ほかのアコースティックな楽器はコンデンサーマイクでとる。

《ひ》

★引き(ひき)

1.被写体とカメラの距離を指す。『引きがない』『カメラを置くスペースがない』

2.ズームレンズの一番広角側を使う場合もある。

★ピンスポット 焦点の絞れる照明。大変重い。

《ふ》

★フェードアウト

画面が徐々に暗くなり、暗黒になる効果。白になる場合は『白フェードアウト』と言う。

★フェードイン

暗黒の画面から徐々に次の画面が現われる効果。白から画面が現われる場合は『白フェードイン』と言う。

(反対語:フェードアウト)

★フォーカスアウト 画面が徐々にピンぼけになる効果(反対語:フォーカスイン)

★フォーカスイン ピントのぼけた状態から徐々にピントが合う効果。

★俯瞰 (ふかん) 高い位置から見下ろす撮影。(反対語:ローアングル)

★フレーム 1.画面の枠。2.ビデオにおける一枚の絵。ビデオは1秒間に30枚の静止画で構成

★フレームイン 1.画面に登場人物が入って来る事。(関連語:板付き)

2.パンする事により、被写体が画面に入って来る事。

★プロローグ 物語の始まりの部分。導入部。(反対語:エピローグ)

《ほ》

★ポップアーストッパー（ポップガード）リップ音や破裂音を録音しないように、マイクの前に置く器具

★ホリゾン（ライト） 背景。床に置く照明。ダンス部が使用している。

《ま》

★マスターショット

一つのシーンで基本となる位置から撮影されたショット。

マスターショットを基準にイマジナリーラインに配慮しながら他の位置から切り返し等のショットを撮影する。（類似語:エスタフリッシングショット）

《み》

★ミキシング 複数の音を一つにまとめること。ミキサーを用いる。

例としてバンドなどの演奏時、各楽器やボーカルの音量をリアルタイムでバランス調整することなどがある。

★見切れる 1. 元来画面に入るべきでない物が入っている事。

2. 必要な被写体が画面から外れている事。

「彼女、見切れちゃったよ。テイク2！」

★ミュート 音声をオフにすること

《め》

★目線

1. 出演者が見ている方向。

2. 出演者に目線の向きを示すサイン。『目線はここ』と言って、手をグーにしてその位置を示す。

《も》

★モノラル 1系統の音声のこと。（反対語；ステレオ）

モノラルで複数のスピーカーを接続するとすべてのスピーカーから全く同じ音声が流れる。

《よ》

★寄り 1.バーストショットやアップショットなど、比較的寄った映像を指す。

《れ》

★レフ板（レフばん）（略称:レフ）

表面に銀箔を貼った光の反射板。主に屋外撮影で使用される。『銀レフ』とも呼ぶ。

撮影すると思った以上に暗いので、基本レフ板を使って撮影すること。撮影には必ず持参する。

《ろ》

★ロケーション（略称:ロケ） 1.屋外での撮影。屋外での撮影行為。2.風景。

★ロケーションハンティング（略称:ロケハン）屋外での撮影のための下見。

《わ》

★ワイプ 場面転換のエフェクトの一つ。あまり多用しないこと。

★わらう どける。作集に支障のない場所に移動する。

【資料】 放送部でよく使うコードの端子

*XLR(キャノン)

マイク⇄ミキサー、ミキサー⇄アンプの接続に使います。

利点：ノイズに強い、コンデンサマイクに電源供給ができる

欠点：モノラルしか接続できない



*フォーン端子/標準ピン/6.3mmピン

XLR以外のミキサーへの接続に使います。ギターアンプ/PC/ワイヤレスマイク（レピーター）とか

利点：色々な機械につなげる

欠点：ノイズに弱い&モノラルのみのもとのノイズに強い&ステレオ対応のものとの2種類ある

※前者を2極（TR）、後者を3極（TRS）って言います

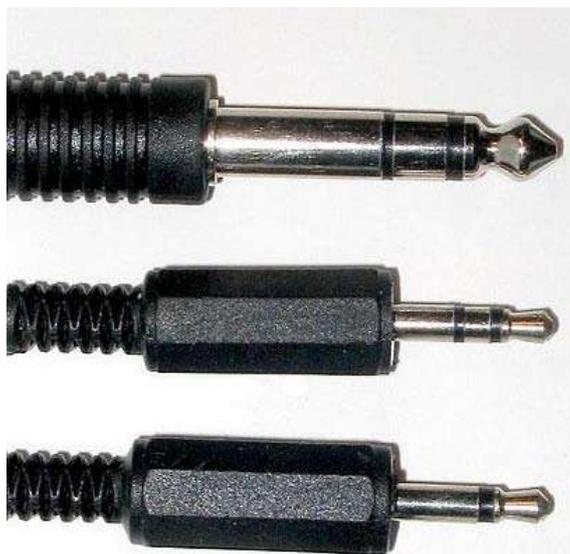


*ミニプラグ/3.5mmピン

スマートフォンと一部無線機ぐらいにしか使わない。これも2極/3極あります。

利点：小さい

欠点：変換するときには困る場合がある



上からフォーン(6.3mm)3極、
ミニプラグ(3.5mm)3極、
ミニプラグ(3.5mm)2極です。

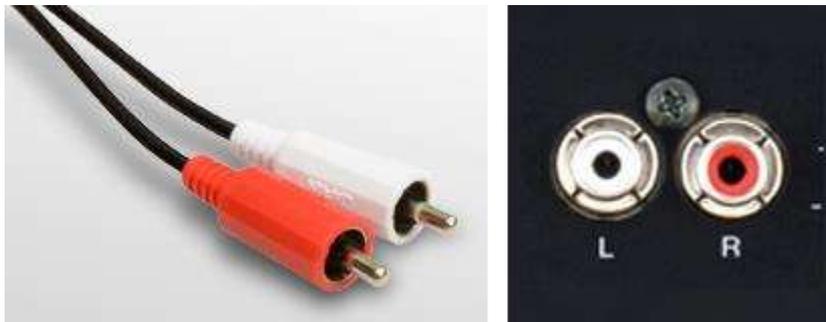
*RCA/ピン端子/赤白端子

CDデッキなどの家電製品によく使われています。赤白2本あり、ステレオ接続に使います。

右 (Right) が赤 (Red) で覚えてください

利点：フォーンに変換するなら困ることがない

欠点：ケーブル探しに少し苦勞するかも

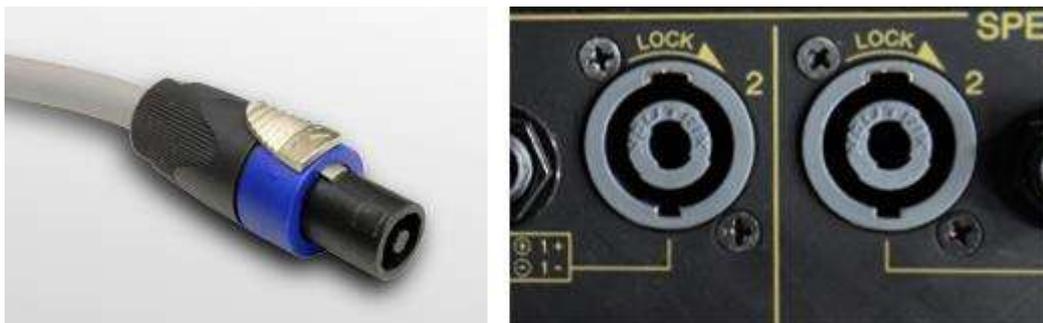


*スピコン端子

パワーアンプ⇄スピーカー、スピーカー同士の接続に使います。強電向けコード

利点：端子でロックが効くので誤って外れにくい

欠点：特に思い浮かばない



【Tips】

コンボジャックはXLRとフォーン端子のどちらも接続することができます。



Combo Jack